

街に、ルネサンス



UR都市機構



平成30年版 環境報告書ダイジェスト
まち・住まいと環境 2018

目次

はじめに	P.1
環境配慮方針／URの地球温暖化対策	P.2
自然を活かしたまちづくり	P.3-6
環境にやさしいURのさまざまな取組例	P.7-10
【東日本大震災における復興支援】 安全・安心なまちづくりの推進	P.11
データで見るUR年次報告	P.12
マテリアルフロー	P.13-14

環境報告書（本編）は、WEBからダウンロードが可能です。
<https://www.ur-net.go.jp/e-report/>



「平成30年版 環境報告書
まち・住まいと環境」



表紙にはURの自然豊かな環境に生息する生物がたくさん描かれています。
どんな生物がいるか、探してホームページで答え合わせをしてみましょう。



はじめに

UR都市機構では、「まち・住まいづくり」を担う公的機関として、半世紀以上にわたり、安全・安心、快適で美しいまちづくりを進めるとともに、まちや住まいの省エネルギー化、自然環境の保全・再生、資源の有効利用や廃棄物の削減など、環境への配慮に先進的に取り組んでまいりました。その取組内容は、毎年「環境報告書」として公表しています。

本パンフレットは、そのエッセンスをまとめて編集し直したもので、より多くの方に読んでいただき、ご理解していただくことを目的としています。さらに詳しい内容をお知りになりたい方は、是非ホームページにアクセスしていただき、「環境報告書」をご覧ください。

UR都市機構は、地球にやさしいまちづくり、人にやさしい住まいづくりに積極的に取り組み、皆様とより一層のコミュニケーションを図り、美しい自然豊かな社会、持続的発展が可能な社会、さらには世代を超えて継承できる安全・安心で快適な環境をプロデュースしていきたいと考えています。今後とも引き続き、皆様からのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

環境配慮方針

UR都市機構は、まちや住まいづくりを進めていくにあたり、環境について配慮すべき視点を取りまとめ、「環境配慮方針」として宣言しました。

1. 環境にやさしいまちや住まいをつくります

- ① 都市の自然環境の保全・再生に努めます
- ② まちや住まいの省エネルギー化を進めます
- ③ 資源の有効利用と廃棄物の削減に努めます
- ④ まちや住まいの安全・安心と快適性を確保します
- ⑤ 皆様と一緒に環境に配慮したライフスタイルを考えます

2. 環境に配慮して事業を進めます

- ① 環境負荷の少ない事業執行に努めます
- ② 環境に関して皆様とコミュニケーションを深めます

この環境報告書に対するご意見・
ご感想を WEB よりお寄せください

UR 環境報告書

検索

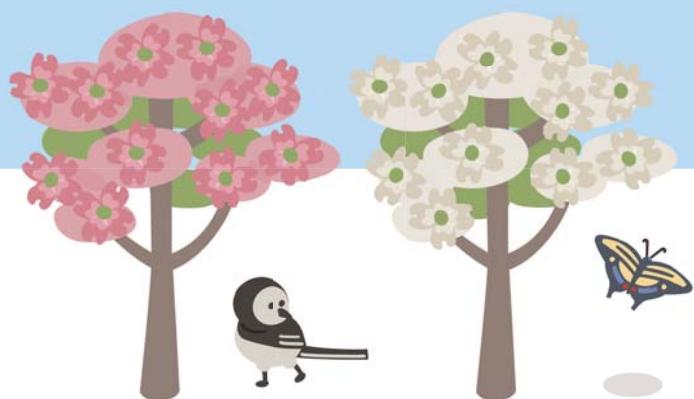
URの地球温暖化対策

UR都市機構は、次の3つの基本的な考え方で地球温暖化対策を進めています。

1. 地球温暖化の抑制のために、UR都市機構の業務のあらゆる分野でCO₂排出量を減らします
2. 経営組織として、費用対効果の高いCO₂排出削減の取組を優先的に進めます
3. お住まいの方や事業者などに働きかけ、連携しながらCO₂排出削減の取組を広げます

CO₂排出の削減総量(目標) : 44,000トン

(平成17年度を基準とした平成30年度におけるCO₂排出削減量)





自然を活かした まちづくり

URは、環境にやさしいまちや住まいづくりに向けて、自然が持つ多様な機能を積極的に活用した取組を進めています。

今、「グリーンインフラ」と呼ばれる「植物・土・水辺などの自然が持つ様々な力を活用して、より暮らしやすいまちづくりや土地利用を考える方法」が注目を集めています。「グリーンインフラ」は環境面や生活面への効果だけでなく、経済面や健康面といった幅広い波及効果が期待できる点が特徴です。

URでは「グリーンインフラ」という新しい概念も取り入れながら、今後も、より一層、身近な暮らしの快適性を高め、安全で美しい魅力的なまちづくりに取り組んでいきます。

自然が持つ多様な機能を活用した URのまちづくり

環境に やさしく

- 豊かな緑の保存・活用
- 建物をつつむ緑の力
- 雨水を蓄えて打ち水効果
- 雨水の利用



安全・安心を 支える

- 避難地になる公園
- 浸水からまちを守る
- 雨水を地下へ貯める



コミュニティを 育む

- 会話が弾む共同花壇
- 地域の人々が集う拠点



生きものと 共に生きる

- 生きものいっぱいビオトープ



まちを彩る

- 思い出すのはきれいな並木
- 季節を感じる美しい空間



► 環境にやさしく



多摩平の森団地（東京都日野市）

■ 豊かな緑の保存・活用

長い年月を経て成長した樹木が育んだ豊かな緑環境や美しい景観を継承していくため、できるだけ既存の樹木を保存・移植して活用するよう努めています。

■ 建物をつつむ緑の力

建物の屋上や壁面を植物で緑化することにより、都市のヒートアイランド現象の緩和や断熱性の向上、建物の保護などの効果を発揮するほか、良好な景観の形成や小さな生態系の回復など、複合的な効果が期待されます。

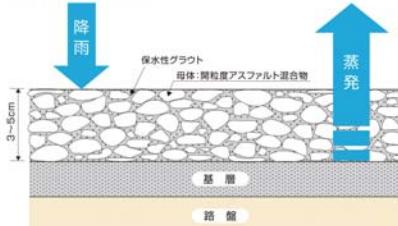


グリーンプラザひばりが丘南（東京都西東京市）

■ 雨水を蓄えて打ち水効果

雨の日に舗装のすき間に雨水を蓄え、晴れた日に蓄えられた水分が蒸発することで、気化熱により道路の表面温度を低下させる「打ち水」の原理を応用した「保水性舗装」を団地内道路などに取り入れています。

道路表層部断面



グラウト材内の0.6mm以下の微粒子の水分子を引き付ける性質を利用して、保水性機能を高めます。



保水性ブロック【ライタウン国領での施工例】保水性アスファルト

■ 雨水の利用

雨水の流出抑制施設を設置し、治水とともに団地内の自然環境や景観形成施設となる池などの水源として雨水の有効利用を図っています。



アーベインビオ川崎（神奈川県川崎市）

▶ 安全・安心を支える



内田防災公園（愛知県犬山市）

■ 避難地になる公園

市街地において、防災機能を強化することを目的に、防災公園と周辺市街地の整備改善とを一体的に実施しています。



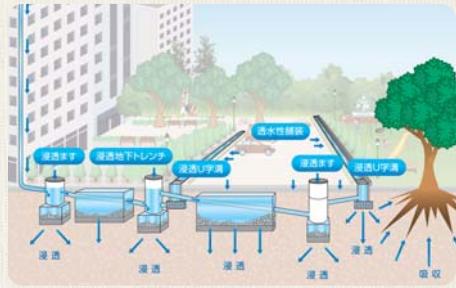
大相模調節池 越谷レイクタウン地区（埼玉県越谷市）

■ 浸水からまちを守る

集中豪雨による浸水被害からまちを守るために、河川に流入する雨水を貯める調節池を整備しています。平常時には水辺でのボート遊びなど親水空間としても利用できるよう工夫をしています。

■ 雨水を地下へ貯める

団地の道路や広場などに雨水浸透施設を組み合わせて整備することにより、雨水を地表近くの土中に分散・浸透させ、雨水流出を最小限に抑え、大雨による浸水被害を防止します。



昭島つつじが丘ハイツ（東京都昭島市）

▶ コミュニティを育む

■ 会話が弾む共同花壇

団地の居住者が共同で花壇を管理・運営し、四季折々の草花を育てるることを通じてコミュニケーションを図る場となっています。



種まきワークショップ
原団地
(福岡県福岡市)

■ 地域の人々が集う拠点

農作業を通じて、高齢者から子供まで一緒に活動することにより、多世代交流の場として新たなコミュニティが形成されています。



団地の農場 日の里ファーム（福岡県宗像市）

▶ 生きものと共に生きる

■ 生きものいっぱいビオトープ

地域の生物多様性の回復を図り、人と生きものが共存できる都市空間を形成するとともに、身近な生きものとのふれあいの場を創出しています。

また、ビオトープ以外の緑地や周辺地域の環境を考慮し、ビオトープネットワークの形成に努めています。



▶ まちを彩る

■ 思い出すのはきれいな並木

団地内の道路沿いなどにおいて、樹木の配置や緑量に工夫を凝らした並木道を整備し、印象的な景観の創出に努めています。



■ 季節を感じる美しい空間

開花や紅葉など樹木の持つ様々な表情を活かし、四季の移ろいが感じられる美しい景観づくりをしています。



環境にやさしいURのさまざまな取組例

すまい

「MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト」見学ツアー

多摩ニュータウン(東京都多摩市)

本編
P21

多摩ニュータウンでは、地域の魅力を実感していただき、将来的な定住のきっかけとなるイベントとして「たまNEWスタンプラリー」が開催され、その一環として「MUJI×UR団地リノベーション」住宅見学ツアーが行われました。



明るく広々としていて、すごく素敵ですね! 今どき感もあるし、団地のイメージが変わりました!



「MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト」見学ツアー 多摩ニュータウン 永山団地

DIYワークショッププロジェクト始動

澄川団地(北海道札幌市)

本編
P21

澄川団地では、「自分好みにカスタマイズ(DIY)できる」をコンセプトにしたUR賃貸住宅の供給、DIYワークショップの開催、カスタマイズを通じた賃貸住宅での自分らしい暮らし方について提案を行っています。



キッチンのリメイクボード貼り体験

使用するのは貼ってはがせる装飾シート。賃貸でも気軽に使えるシールタイプの壁纸です。女性一人で簡単に貼れて、失敗したと思ったら、何度でも貼り直せるので初心者でも安心。



有孔ボードを使った小物置きづくり体験

玄関の鍵掛けや、大きさを変えてキッチンの調味料置き棚にするなど、いろいろと便利そうです!



「サロン大島」 江東区とURの連携による 団地集会所を活用した通所型サービス

大島四丁目団地(東京都江東区)

本編
P24

江東区との連携による団地集会所を活用した介護予防・生活支援サービス事業「通所型サービス」が行われています。

これは、お住まいの方やボランティアが中心になって、支援が必要な方々に通いの場やサービスを提供するものです。

大島四丁目団地では、NPO法人たんぽぽ会が「サロン大島」として毎週木曜日に運営しています。

簡単な体操や脳トレーニング、おしゃべりや歌を楽しむプログラムで、昼食をはさみながら約3時間を過ごします。和気あいあいとした楽しい雰囲気で、参加者の皆さんも自然と笑顔になり、プログラムの合間のおしゃべりにも花が咲いています。



脳トレーニングの様子



昼食後は歌の時間

千葉県立保健医療大学と 連携し団地をモデルに健康づくり

花見川団地(千葉県千葉市)ほか

本編
P24

URと千葉県立保健医療大学は団地を活用し、地域にお住まいの方々の健康づくりや健康寿命の延伸、地域社会へ貢献できる人材の育成を目的に連携協定を結んでいます。

平成29年度は、千葉県内の5団地で高齢者を対象とした「ほい大健康プログラム(保医大が行う地域のための健康づくりモデルプログラム)」を実施しました。

運動をしながら課題を行うと
認知症が予防できます



参加した千葉県立保健医療大学の教員と学生



認知症予防を目的とした運動「コグニサイズ」



食事内容を再確認し食事の質を向上



医師による問診、健康相談

環境にやさしいURのさまざまな取組例

みどり

「ココチプレイス学園の森」誕生

つくばエクスプレスタウン研究学園
葛城地区(茨城県つくば市)

本編
P17

「ココチプレイス学園の森」は、地区の象徴であるテーダマツ並木を生かして誕生した住宅地で、テーダマツと筑波山の遠景を取り入れた上質感のある街並みとなっています。テーダマツ並木は1960年代に防風林として植樹されたもので高さ20m級の大木が続いている。当地区のモデル街区10棟は、つくば市低炭素街区第1号に認定されました。



筑波山を遠景にテーダマツの景観を保全



区画道路等の整備の状況



まちびらき テープカットの様子

街路樹植樹イベントを開催

鹿折地区 (宮城県気仙沼市)

本編
P30

URが気仙沼市から受託し整備している鹿折地区内で、鹿折まちづくり協議会による街路樹植樹イベントが開催されました。植樹する木には地域の方々とURが中心になり「ふるさと鹿折」のまちづくりを思いながら、春先に白い花をつけ「ふるさとの花」のイメージがあるコブシが選定されました。



植樹の様子



樹名札に紐付作業をする鹿折中の生徒



鹿折中の生徒が制作した樹名札



高さ3mの苗木に括り付けた樹名板

まち

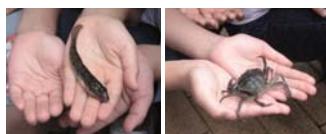
「ベイシティ晴海」 水辺で憩えるまちが完成

晴海三丁目西地区（東京都中央区）

本編
P17

晴海三丁目西地区では、平成18年の事業計画認可から合計7棟の住宅・事務所・ホテル・医療施設の建設が進み、平成29年度に再開発事業が完了しました。

本地区では、再開発事業とあわせて、まちの魅力や付加価値の向上を図るため、親水護岸や公共下水の整備、電線の地中化などの総合的な整備がおこなわれています。親水護岸には、水辺のステップ（階段護岸）や水辺のテラス（張出し部）、水辺のステージ（潮溜まり）を整備し、高い親水性と憩える環境をつくりだしています。



水辺のステージで出会える仲間たち



安全・安心の川辺のまちづくりの開始

大和川左岸（三宝）地区（大阪府堺市）

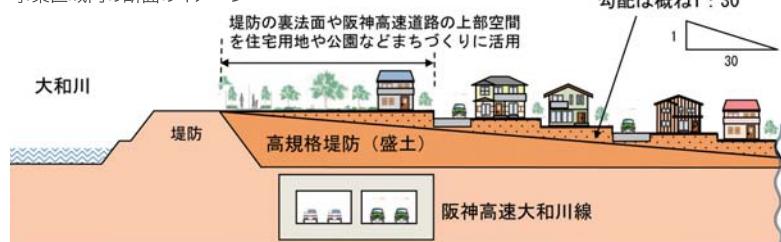
本編
P23

大和川左岸（三宝）地区では、大和川で大きな洪水が発生しても堤防が決壊して沿川市街地に壊滅的な被害が生じないように国土交通省が進めている高規格堤防整備と、URによる区画整理を一体的に推進し、防災性の向上だけでなく、親水性が高く、眺望や景観にも優れた良好な市街地の形成をめざしています。

平成29年6月にURを施行者とする土地区画整理事業が国土交通大臣により認可され、事業に着手したところです。



事業区域内の断面のイメージ



【東日本大震災における復興支援】安全・安心なまちづくりの推進

- U R都市機構は25の被災自治体において、復興市街地25地区1,431haの整備、災害公営住宅86地区5,951戸の建設等を行い、被災自治体の復興まちづくりを支援しています。
- 復興まちづくりの着実な進捗により、まちのにぎわいや交流の場となる拠点の完成や新しいまちのまちびらきが行われています。

小学生向けに防災観光交流センターの見学会を実施 (岩手県大船渡市)

津波発生時の一時的な避難場所、平常時の人や活動をつなげる交流の場所としての機能を持つ同施設への理解を深めてもらうために、平成30年3月に大船渡小学校3年生の「まちづくり」をテーマにした総合学習の一コマをお借りして同市などと見学会を実施しました。



同市から受託して建設した
防災観光交流センター
(平成30年3月竣工)



UR職員は施設の概要や特徴を説明し、
児童の皆さんは真剣に耳を傾けてくださいました。



いわき市薄磯地区の宅地完成式と 7年ぶりの海開き（福島県いわき市）

同市から復興市街地整備事業を受託した同地区では、全宅地の引渡しが完了したことから、平成30年7月に宅地完成式が行われました。URは同地区において、住宅地、道路、防潮堤の基盤、防災緑地などを整備し、安全・安心なまちづくりを支援してきました。これらの整備が着実に進捗し、隣接する薄磯海岸では7年ぶりに海開きが行われ、多くの人にぎわいました。



防災緑地などが整備された
薄磯地区(平30年3月)



海開きでにぎわう
薄磯海岸の様子

のびる 野蒜ヶ丘地区のまちびらき（宮城県東松島市）

被災した市街地の機能を安全な高台へ一体的に移転するための復興市街地整備事業、災害公営住宅整備事業等を同市から受託等し、安全・安心なまちづくりを支援してきました。

同地区は、特別名勝松島を構成する奥松島の一角でもあり、海上や展望地点からの遠景に配慮したほか、周囲と調和するよう災害公営住宅に地域に多い黒色系の勾配屋根を採用するなど景観にも配慮しました。

同地区では、平成29年8月の災害公営住宅の引き渡しをもって事業が完了し、同年10月にまちびらきが行われ、新しいまちの誕生を祝いました。



新市街地の様子。景観と周囲との
調和にも配慮して整備を実施
(手前の黒色系の屋根が災害公営住宅)



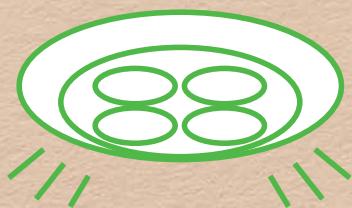
まちびらきまつりでは、小学校の
生徒による宮野森太鼓で幕を開け、会場は大いににぎわいました。

データで見るUR年次報告 UR賃貸住宅の省エネの取組を紹介します

● LED照明（高効率照明）

新規に建設するUR賃貸住宅の共用廊下や階段には、白熱電球や蛍光灯より消費電力が小さくて、寿命が長いLED（発光ダイオード）照明を設置しています。

また、既存のUR賃貸住宅においても、共用廊下や階段等で用いられていた蛍光灯照明器具を、取替え時期に合わせて順次LED照明に切り替えています。



平成29年度はLED照明を
112,790台設置

LEDって何？

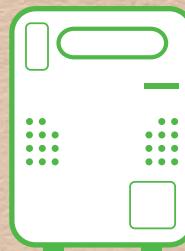
LEDは半導体のなかで電気エネルギーを直接光に変化する仕組みを応用了したものです。

青色LEDが開発されてから、蛍光ランプ並みの発光効率をもつ白色LEDが登場し、家庭の照明として普及が進んでいます。

● エコジョーズ（潜熱回収型給湯器）

新規に建設するUR賃貸住宅のファミリー向け住戸のほか、既存のUR賃貸住宅の一部においても、給湯器の取替えの機会に潜熱回収型給湯器を設置しています。

合わせて、一部のUR賃貸住宅では、手元止水スイッチ付きシャワーヘッドを設置しています。手元でのワンタッチの止水により、節湯効果とCO₂排出量削減の効果があります。



平成29年度はエコジョーズを
11,664戸に設置

シャワーで使うお湯の量は？

節水型シャワーの水量は一分間に8.5ℓです。10分間使用すると85ℓになります。浴槽の水量（約200ℓ）と比べると少なく済みますが、4人家族がシャワーを使うと340ℓになるので、こまめにシャワーを止めると節水になります。

● 太陽光発電

一部のUR賃貸住宅では、エコの取組の1つとして、太陽光パネルを建物の屋上などに設置しています。発電した電力は共用廊下などの照明や集会室のエアコンなどに使っています。

また、事業用地等を活用した大規模太陽光発電所の誘致を行い、再生可能エネルギーの活用に取り組んでいます。



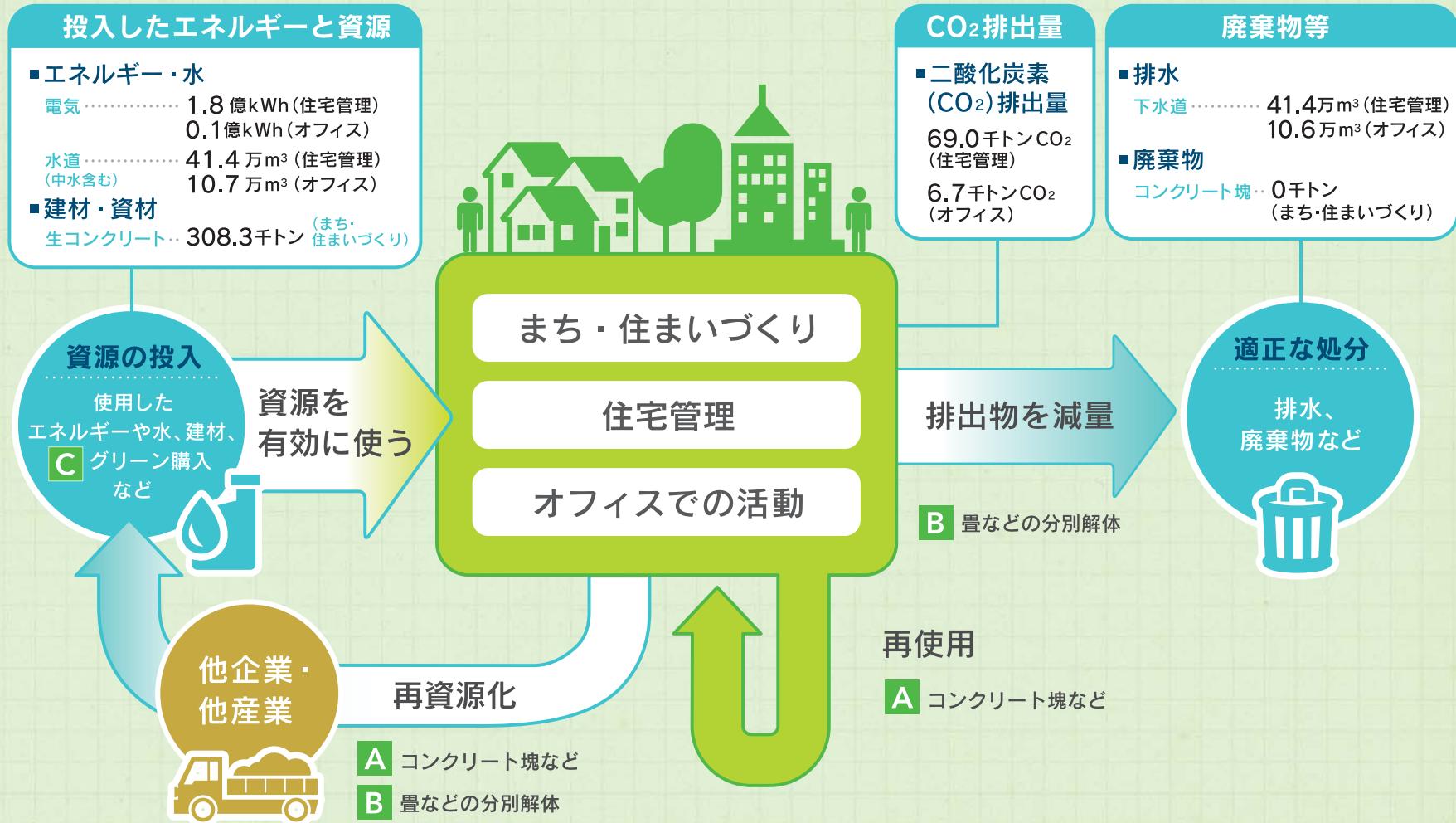
これまでに設置した
太陽光パネルで1年に
約57万kWhを発電

再生可能エネルギーって何だろう？

石油や石炭、天然ガスなどの有限な資源である化石エネルギーと違い、太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど永続的に利用できるエネルギーのことです。再生可能エネルギーは、資源が枯渇せず繰り返し使え、発電時や熱利用時に地球温暖化の原因となる二酸化炭素をほとんど排出しない優れたエネルギーです。

マテリアルフロー

平成29年度にUR都市機構が消費した主なエネルギー、水、建材など「ものの流れ」



A

コンクリート塊などの 再使用・再資源化

まちや住まいづくりにおいて、限りある資源の有効利用、廃棄物の発生抑制、減量化、再資源化を図っています。

例えば、工事で発生したコンクリート塊は、できる限り団地内の道路舗装等で再使用を図り、現地で再生ができないコンクリート塊は再資源化施設でリサイクルしています。

再資源化した
コンクリート塊
(リユース含む)

578.8トン
(100%)



B

畳などの分別解体

UR都市機構では、UR賃貸住宅の建替工事に伴う建設廃棄物のリサイクルに取り組んでいます。これまで建設発生木材と混合廃棄物に分別し、リサイクル・最終処分されていた内装材について、畳、グラスウール、石膏ボード、板ガラス、蛍光管、発砲スチロール、塩ビ管・継手、その他混合廃棄物の8品目の分別解体を実施し、再資源化と最終処分量の低減に努めています。

分別解体した畳

1,582.6トン

(分別解体率：100%)

C

グリーン購入

紙や文具などの物品及び役務の調達では、環境負荷のできるだけ小さいものを選択するグリーン購入を行っています。平成29年度は、調達を行った全ての品目で100%の調達目標を達成しました。

UR都市機構が発注した工事においても、強度や耐久性、コスト等に留意した資材、建設機械、工法の中から特定品目を設定し、すべての品目で目標を達成しました。

文具等
100%適合品
調達品目数

132品目



COOL
CHOICE

未来のために、いま選ぼう。

つなげよう、
支えよう
森里川海

VEGETABLE
OIL INK



再生紙を使用して
います

独立行政法人都市再生機構 〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町 6-50-1 横浜アイランドタワー
TEL. 045-650-0111 <http://www.ur-net.go.jp/>